

僕は「僕」

岐阜市立青山中学校 3年
萬関 友香(まんせき ゆうか)

僕は、中学3年生の萬関友香です。英語が好きで、いつか世界中の人と交流ができるように僕はなりたいです。あれ？皆さん。今、何か感じましたか？きっと、それは「僕」という一人称にあると思います。萬関友香という名前や声、姿などから、女子なのに本来男の人が使う「僕」を使っているという違和感が、皆さんの頭の中を駆け巡ったのではないのでしょうか。

僕は6年生の頃から、「僕」を使い始め、同じ時期に妹も「僕」を使い始めました。自分のことを「僕」という呼称は、今までで最もしっくりくるものでした。「私」よりも「自分」よりも、僕は「僕」だったのです。

それにしても、なんで「私」は女性も男性もどちらも使えるのに、「僕」は男性しか使えないのだろうか？自分の使いたいように使えばいいのに……。

「僕」という呼び方が男性だけのものだと感じたのは、あるブログへのとある投稿とその返信を見たのがきっかけです。その人は自分と同じ中学生で、一人称について悩んでいました。そこには、僕も共感できるコメントがたくさんありました。嬉しさとともに、コメントを読むのが少し怖いとも感じました。恐る恐る読んだコメントには、こんなことが書いてありました。「社会では『私』という一人称を使うのが当たり前だから、今のうちに直しておくべきですよ。」その瞬間、息をするのも忘れていました。ただ、覚えているのは言葉では表せない何かで、僕の頭の中が忙しくなったことです。また、「個性という言葉に逃げてはいけない。」とも書かれていて、今までの自分は本当に正しかったのかなと、もう一人の自分に問われているような気がしました。個性は、社会で生きていくうえでそんなにも邪魔なのではないのでしょうか。

ある芸能人は今、「僕」という一人称や話し方を武器にとても有名になっています。その人のことをあまり知らない僕でも、テレビで目にする日は少なくありません。しかし、やはり一部の人からはそれを好奇の目で見られることもあるようです。そう考えると、自分のこの個性も社会では万人受けしないのかなと思います。今思い返すと、私はみんなから不思議に思われていたんじゃないかなと思います。初めて会った同級生に自己紹介をする時は首を傾げられたこともあります。恐らくその人からは僕が「変な人」に見えたのでしょう。

また昨年のことですが、ある先生から「自分の呼び方は時と場合によって使い分けた方がいいよ。」と言われました。まさか自分の身近な人からそう言われるとは、まったく思ってもいませんでした。その言葉を聞いて、その時は冗談を言ってその場をごまかしましたが、今までの自分の呼び方に対して、少し立ち止まって考える機会になりました。先生は、僕が社会に出た時のことも考えて話をしてくれたんじゃないかなって思うと、今はとても感謝しているし、むしろ、以前ブログの件でうろたえた自分を懐かしく振り返られるようになりました。

そんなこともあり、僕は言葉の捉えられ方や時代の変化について、少し興味をもちはじめました。

古典の授業をしていた時に、国語の先生が「昔は『漢字は男性が使うもの』『女性はひらがなを使うもの』だったんだよ。」と教えてくれました。僕は昔の日本には文字にさえも「男性らしさ」と「女性らしさ」があって驚いたのと同時に、紀貫之という人が、それに興味をもって女性っぽくひらがなで書いた日記があるというエピソードも面白く感じました。

また、最近では小学生のランドセルには様々な色が使われています。男子は黒で、女子は赤という色の固定観念がなくなってきた良い例だと思います。

こんな風にして、「らしさ」の見方や考え方は、長い長い、本当に長い時間をかけて、変化してきています。今も、まさにその途中なのです。

僕は一人称については、場によって使い分けていこうと思っています。家族や信頼できる人の前では「僕」、学級や学年の場では「自分」、より公の場になったら「私」などと、その場にふさわしい振る舞いや言葉とは何なのかを考えて使い分けていこうと思っています。

だから、やっぱり僕は「僕」でありたいです。だって、そのほうが萬関友香らしいから……。